

# KKT 熊本県民テレビ、熊本地震 10 年で特別キャンペーンを始動 「わたしたちは、生きてきた。」



株式会社熊本県民テレビは、2016 年 4 月に発生した熊本地震から 10 年を迎えるにあたり、熊本県民に向けた映像を制作・公開します。

## キャンペーンについて

熊本地震から 10 年。KKT は熊本とともに歩み、その歩みを見つめ続けてきました。あの夜から、それぞれの日常を続けてきた——本キャンペーンはそんな熊本県民一人ひとりの 10 年に寄り添い、エールを送るものです。日常の風景を映すため、熊本地震で 2 度の震度 7 を観測した益城町のほか県内各地で撮影を行い、県民の声を集めながら、熊本出身のクリエイターたちとともに制作しました。

熊本県民テレビ編成部 浦野真未・畑中香保里

「10 年が経ちました」で始まるこのキャンペーンは、熊本でともに暮らす KKT からのエールです。地震から 10 年の節目に、私たちから伝えるメッセージはどんなものがふさわしいだろう。私たちは何度も話し合い、その中で、「最後に希望を感じるものにしたい」と強く思うようになりました。「もっと大変な思いをした人がいるから」と地震について多くを語らない方がいるかもしれません。しかし、それぞれに不安や悲しみ、怖さを抱えながら過ごした時間があつたはずです。それでも 1 日 1 日を 10 年間積み重ねてきたことを、どうか誇りに思ってもらえますように。これからも、ともに熊本の地で生きていきましょう。



#### コピーライター 上田浩和さんからのコメント

通町のデパートで働く人も。新町の電停で電車を待つ人も。宇土で赤信号を待つ人も。益城の田んぼ道を散歩する人も。熊本で暮らす人のなかで、あの地震で傷つかなかった人は一人もいません。誰もが、そこから立ち上がり、立ち止まりながらも、前に進んできました。この10年は、そんな時間だったはず。私たちは、熊本で暮らすすべての人の10年に、敬意を払いたいと考えました。それがどれだけすごいことだったのかに、あらためて気づき、誇りに思ってもらいたい。その思いから、このキャンペーンをはじめます。



#### シンガーソングライター シガキマサキさんからのコメント

熊本地震から10年。当時、妻のお腹の中にいた次男も10歳になります。身重の妻と長女を長崎に避難させる道程で見かけた県外ナンバーの車両や人々の姿、蛇口から水が出たときの歓喜。それまで当たり前だった日々の暮らしの尊さに涙したのが昨日のことのようです。

今回、18年前の楽曲をCMコンセプトに基づいてリメイクしました。あの日失意の中で同じ空を見上げてた人々が、それぞれの痛みを抱えながらも生きていくため遅く歩んでこられた日々を歌で讃えられたら。月明かりが誰の上にもそっと優しくスポットライトを当てるように…。そんな思いを歌に込めました。

【連絡先】熊本県民テレビ コンテンツ戦略局編成部 096-363-6136